

会 議 録	
会議名	令和 3 年度第 1 回在宅医療・介護連携推進協議会 広報啓発部会
日 時	令和 3 年 6 月 29 日 (火) 13 時 30 分～14 時 30 分
会 場	三郷市医師会館大会議室
参加者	<p>【部会長】吉寄 太朗 (吉崎歯科医院)</p> <p>【副部会長】丸山 菜穂子 (みさと南訪問看護ステーション居宅介護支援事業所)</p> <p>【委 員】磯 知恵 (地域包括支援センターみさと南)、白井 健志 (三郷中央総合病院)、栗原 一樹 (采女の里デイサービスセンター)</p> <p>【サポートセンター/医師会事務局】藤井なほ美、川島幸道</p> <p>【市事務局】八巻絢子 高橋真一</p>
検討課題	<p>1. 部会長・副部会長・委員の選出</p> <p>2. 事業計画</p>
内 容	<p>1. 広報啓発部会の目的、新規委員の確認 (磯 知恵 (地域包括支援センターみさと南)、白井 健志 (三郷中央総合病院)、栗原 一樹 (采女の里デイサービスセンター)。部会長については昨年から引き続き吉寄先生へ依頼し、副部会長は丸山委員に依頼した件につき説明された。</p> <p>2. 今年度のスケジュールについて 本日を第 1 回とし、3～4 回で開催予定とし稼働する。</p> <p>3. 実施内容 平成 29 年度は特養の看取りで石飛幸三先生、平成 30 年度は在宅での看取りで小笠原文雄先生にご講演をいただいた。 令和元年は、介護ミニ講座として、市民向けの小規模な講座を開催することとし、介護の入口として地域包括センターの話を中心に実施した。 令和 2 年度はコロナ感染症拡大防止の観点から、冊子の配布とし、医療介護の取っ掛かりとして、令和元年のミニ講座を参考に絵本風 B5 冊子「介護の絵本」を作成し配布した。 参考までに昨年実施した三郷市在宅医療介護連携の「市民への啓発が重要と思うもの」というアンケートによると、①医療介護の相談口②ACP③在宅医療④介護予防となっている。</p> <p>4. 今年度の予算について 部会員の報償費を除き、総額 20 万円 (税込み) となっている。</p>

【議論】

・テーマは ACP で冊子を制作することを承諾後、どのように行うか議論した。

(丸山) プライベートでエンディングノートを実際に行ってみて、気づいた点として、ネットなどでも取っ掛かりになるものがあればいいと思った。

(白井) ACP の啓発、周知し次のステップアップに繋がるようになればよい。昨年の介護の絵本と同じようなタイトル、見やすいものがよい。ベースは地域、在宅の方が読めるものを中心にしたものを作れば、病院や介護施設でも資料として活用できる。

(丸山) 具合が悪くなる前に健康な人が身近な人と気軽に話せることが大事。話題にするのを躊躇するのを変えて行ければいい。

(八巻) 資料はターゲットを絞るという意味で提示したもので、日常生活で健康な方が家族と考える一助になればいいというご意見が多かったのものでそれでよいと思った。

(白井) ACP はネットで埼玉県医師会や東京都の方で一般向けのものが出来ているのを見た。部会で啓発物でもそういった物にも繋げていけたらよりよい。

(吉寄) 去年と同じ絵本風にするかはまた検討として、他で作っている物を改めて作るというより、他にないようなものを作りたい。

(事務局) 実例を挙げて行ったら分かりやすいのではないか。

(吉寄) ACP 自体を分からない人が多い。自分が健康でなくなって ACP を活用してみて、困った、もめた、良かったことなどのエピソードがあれば、資料として作りやすい。細かくやるよりはやってみて良かったという成功体験がよいのではないか。やってみようと思えるものがよい。

(丸山) 仕事で実例体験はあまりない。間際の意味確認の方が多い。手軽に話してみましようという実例が無いのが現状。

(白井) 元気なうちにやるのが ACP。話は違うがコロナの件でも先に話し合っておく機会になった。

(吉寄) 死を扱うテーマとしてはやり方次第で反感を得る事もあるので、配慮していかないといけないが、広く受け入れて貰うことを考えてもっと気軽に明るくやったほうがよいのではないか。

(八巻) 事例について皆様の意見を参考に作ることはできる。

家庭ではドラマや映画など見ている自然に話すきっかけになった。

(白井) 家族にとっても話し辛いと思うが、未来の話としてその項目の

	<p>中で病気になったらどうか等から ACP に繋げていくのはどうか。</p> <p>(丸山) ACP という終末期の方の意思をきくというイメージがあるがそうでなく、ちょっと先の話の聞くということ。若い人も考える切っ掛けになればよい。自分の体験として話すタイミングについては悩んだ。モシバナゲームのようなツールがあれば話しやすいと思う。</p> <p>(磯) まとめると、対象について健康な人で年齢を問わずに啓発したいとのことだが、伝え方として考えることを後押しするだけなのか。それともその後、考えるプロセスにまで踏み込むのか。ACP は段階的に進めるものなので、どのように構成して啓発していくのか。</p> <p>(吉寄) 実際的な中身に関してはそこまで作ることはなく、簡単な具体例が載っていればいい。やりましょうと促す方に重点をもっていきましょう。</p> <p>(事務局) それでは、ACP に触れる一歩にするという事で委員が各自考えをまとめてデータ化し MCS でアップしてください。それを元にご意見いただきながら、次回考えていきましょう。</p>
結論	<p>1.2 承認</p> <p>3. ACP についての冊子を作成して、配布する。</p> <p>内容については市民が ACP というものがあるという ACP にふれる最初の段階について冊子でまとめることとした。次回までに確認し、意見を持ち寄り、方向性を検討する。</p> <p>健康な人を対象とし、年齢を問わずに啓発する。</p>
次回検討課題	<p>・MCS に ACP について 7 月 27 日までに各自考えたものを全体で検討する。</p>
次回開催日時	<p>令和 3 年 8 月 3 日 (火) 13 : 30 ~</p>